

所長就任あいさつ

岡 本 舜 三



岡本舜三所長

今回はからずも教授総会のご推薦により第7代所長に就任することになりました。微力ながらお引き受けした以上は新しい任務にはげむつもりでおります。皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたす次第でございます。

生産技術研究所は開所以来 15 年になりました。これを第二工学部創設の時から数えるならば、すでに 22 年たっております。もはや決して揺籃時代とは申せません。すでにその基礎はかたまり、独自の性格はつちかわれ、初期に掲げた目標の実現を期して邁進しうる力を貯えていると考えなければなりません。

このときにあたって客観情勢はすべて当研究所の活躍を期待しているように見えます。所外の情勢をみるならば貿易自由化の結果、国内の技術革新は不可欠となり、そのためには生産の技術的問題の学理的解決が最も強く望まれております。また戦中戦後を通じて荒れるにまかされた国土は国力の充実によってようやく整備の時期に至り、おびただし建設工事が実施されていますが、これが基礎をなす建設技術の科学的研究は天災の多いわが国の特殊事情も加わって、ますますその必要性を痛感されております。また新天地の開発という意味では人類の活躍舞台は地球上の極地から遂に地球外に及び、エネルギー源は原子核の中にこれを求める等まさに新時代の黎明を迎えつつあります。また所内についてみますと懸案であった千葉からの移転も一部を除き一段落をみ、麻布新庁舎における研究機器の据付けもほぼ終わり、大学院学生数は予期の如く増加し、研究態勢も一応整い、いまはさてこれからという時であります。またこれまで重要研究課題として取り上げられていました観測ロケットの研究は、いよいよ宇宙航空研究所として独立するまでに生長し、この点でも今年は当所の歴史の上には一転機を劃する時となっております。

このように所の内外の情勢はようやく一人前の青年となった当研究所に奮起を要請し試練を与えようとしているように見えます。このときにあたって私は今一度創設当時のわれわれの理想を思いおこして、今後の進む方向を正しく見つめたいと思うのであります。

創立当時われわれの研究所の目標として瀬藤所長はいくつかの項目をあげられました。そのうちとくに重要なものは、生産の技術的問題の学理的かつ経済的解決のための総合研究と、人材の養成とであったと思います。総合研究については瀬藤所長はその態勢として各研究者はそれぞれ独立して自由に専門分野の研究に沈潜しつつ、しかも一方において産業界の推移に注目し、その発展の基底をなすと観ぜられる課題に対して、必要に応じ所内の研究力を結集することのできるものであるべきであるという意味のことを、たびたび、われわれに教えられ歴代所長もその方針で進んでこられました。

現代の科学技術の進歩のためには総合研究が必要であるということは、これまでしばしば識者によって唱えられていました。しかし実績は必ずしも所期の如くでなかった一因は、それがただ観念的に論ぜられ、しばしば不必要な研究統制と結びつき、個人の創意が封じられる結果となったことにあるのではないかと考えられます。われわれの研究所の総合研究態勢は学問の自由に対する大学の伝統的雰囲気、それは短年月では容易にえられない貴重な雰囲気の中に、あくまで個人の創意を尊重しつつ、しかも総合の力を発揮するように育成されてきました。その結果、当研究所においては独創的業績においてわが国を代表するような研究者が生まれ、一方また基礎研究や委託研究を通じて学界や産業界に貢献した数多くの総合研究が行なわれてきました。このことは当初の目標が正しく、しかもそれに向かって進まれた歴代所長の運営が正しかったことを示すものと思っております。

しかしながら科学技術の進歩は一日として休むときはありません。われわれはこれまでの成果に甘んじ、研究所内にあるあいいたる雰囲気にな住してはならないと思います。私は研究所に対しては学術の最先端をいくものとして世の期待の大きい反面、批判もまたきわめて厳しいものがあることを知り、常に自戒しつつこれまで同様の道を前向きに歩いてゆきたいと思っております。

他の一つの大きな目標は人材の養成ということでありましたが、東京移転はその具体化について恵まれた環境を与えたわけであります。私は人材の養成といっても、この研究所の性格上それは研究者の育成であると思っております。来るべき科学時代においては、たんに指導的技術者のほかに高級研究者というものがとくに文化の推進の面で大きな役割を果たすものと考えられますが、それは今日から育成しておかばなりません。そして大学付置研究所は高級研究者を育成するにあつさわしい場であると考えられます。当研究所は現在その仕事に若干の貢献はしておりますが、しかし、まだはなはだ小規模かつ不十分であり施設的にも完備したものではありません。高級研究者の育成における研究所のもつ役割の重大性についての世の認識を求め、その方面におけるわれわれの貢献が十分果たせるように、さらに一段と努力したいと思っております。

創立以来 15 年を閲し、現在当研究所は非常に大切な時期にさしかかっていると思っております。このときに所長の重責を負いますことは省みて忸怩たるものがありますが、皆様のご支援を期待して、上の二つの目標に向かって踏み間違えぬように着実に歩いてゆきたいと存じます。ここに就任に当たり日頃の所信を述べてご挨拶にかえる次第でございます。

(1964 年 4 月 1 日受理)